

令和5年神奈川県
国家戦略特別区域限定保育士試験問題

保 育 原 理

(選択式 20 問)

指示があるまで開かないこと

解答用紙記入上の注意事項

- 1 解答用紙と受験票の受験番号が同じであるか、カナ氏名・科目名を確認し、誤りがある場合は手を挙げて監督員に申し出ること。
- 2 漢字氏名を必ず記入すること。
- 3 解答用紙は、折り曲げたりメモやチェック等の書き込みをしないこと。
- 4 鉛筆またはシャープペンシル (HB～B) で、濃くはっきりとマークすること。
正しく記入・マークされていない場合は、採点できないことがあります。

(良い例) …  (濃くマークすること。はみだしは厳禁。)

(悪い例) …       

- 5 各問に対し、2つ以上マークした場合は不正解とする。
- 6 訂正する場合は、「消しゴム」であとが残らないように消すこと。

問1 次の文は、「児童の権利に関する条約」第31条の一部である。この記述を完成させる場合、(A) ~ (C) の語句が正しいものを○、誤ったものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

締約国は、休息及び (A 運動) についての児童の権利並びに児童がその年齢に適した (B 遊び) 及びレクリエーションの活動を行い並びに (C 教育的) な生活及び芸術に自由に参加する権利を認める。

(組み合わせ)

- | | A | B | C |
|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | × | ○ |
| 3 | ○ | × | × |
| 4 | × | ○ | ○ |
| 5 | × | ○ | × |

問2 次の文は、「児童福祉法」の一部である。(A) ~ (D) にあてはまる語句を【語群】から選択した場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

全て児童は、児童の権利に関する条約の精神にのつとり、適切に(A)されること、その生活を(B)されること、愛され、保護されること、その心身の健やかな成長及び発達並びにその(C)が図られることその他の(D)を等しく(B)される権利を有する。

【語群】

ア	独立	イ	福祉	ウ	援助	エ	保障
オ	自立	カ	環境	キ	養育	ク	教育

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | キ | ウ | ア | イ |
| 2 | キ | エ | ア | カ |
| 3 | キ | エ | オ | イ |
| 4 | ク | ウ | ア | カ |
| 5 | ク | エ | オ | イ |

問3 次の文は、「教育基本法」の一部である。この記述を完成させる場合、(A) ～ (C) の語句が正しいものを○、誤ったものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

幼児期の教育は、生涯にわたる (A 資質・能力) の基礎を培う重要なものであることにかんがみ、(B 国及び地方公共団体) は、幼児の健やかな成長に資する良好な (C 子育て支援施設) の整備その他適当な方法によって、その振興に努めなければならない。

(組み合わせ)

	A	B	C
1	○	○	×
2	○	×	○
3	×	○	○
4	×	○	×
5	×	×	○

問4 次の文は、「全国保育士会倫理綱領」の一部である。(A) ~ (D) にあてはまる語句の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

すべての子どもは、豊かな (A) のなかで心身ともに健やかに育てられ、自ら伸びていく無限の (B) を持っています。

私たちは、子どもが現在 (いま) を幸せに生活し、未来 (あす) を生きる力を育てる保育の仕事に誇りと責任をもって、自らの人間性と (C) の向上に努め、一人ひとりの子どもを心から尊重し、次のことを行います。

私たちは、子どもの育ちを支えます。

私たちは、保護者の (D) を支えます。

私たちは、子どもと (D) にやさしい社会をつくれます。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	愛情	可能性	技能	暮らし
2	愛情	可能性	専門性	子育て
3	愛情	資質・能力	技能	子育て
4	情報	資質・能力	技能	暮らし
5	情報	可能性	専門性	子育て

問5 次の文は、「保育所保育指針」第2章「保育の内容」の一部である。(A)～(D)
 にあてはまる語句の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

この章に示す「(A)」は、第1章の1の(2)に示された保育の目標をより具体化したものであり、子どもが保育所において、安定した生活を送り、充実した活動ができるように、保育を通じて(B)を、子どもの生活する姿から捉えたものである。また、「(C)」は、「(A)」を達成するために、子どもの生活やその状況に応じて保育士等が適切に行う事項と、保育士等が援助して子どもが環境に関わって経験する事項を示したものである。

保育における「(D)」とは、子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育士等が行う援助や関わりであり、「教育」とは、子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助である。本章では、保育士等が、「(A)」及び「(C)」を具体的に把握するため、主に教育に関わる側面からの視点を示しているが、実際の保育においては、(D)と教育が一体となって展開されることに留意する必要がある。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	ねらい	育みたい資質・能力	内容	養護
2	ねらい	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	内容	保護
3	目的	育みたい資質・能力	活動	養護
4	目的	育みたい資質・能力	内容	保護
5	目的	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	活動	保護

問6 次の文は、「保育所保育指針」第2章「保育の内容」3「3歳以上児の保育に関するねらい及び内容」(2)「ねらい及び内容」イ「人間関係」に関する記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 保育士等や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。
- B よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。
- C 保育所における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しを持って行動する。
- D 身近な物を大切に作る。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	×
2	○	×	○	×
3	○	×	×	○
4	×	○	×	○
5	×	×	○	○

問7 次の文は、異年齢の編成による保育に関する記述である。「保育所保育指針」第1章「総則」3「保育の計画及び評価」(2)「指導計画の作成」に照らし、不適切な記述を一つ選びなさい。

- 1 異年齢の編成による保育では、自分より年下の子どもへのいたりや思いやりの気持ちを感じたり、年上の子どもに対して活動のモデルとして憧れをもったりするなど、子どもたちが互いに育ち合うことが大切である。
- 2 異年齢の編成の場合は、平均的な各年齢の発達を重視して保育のねらい及び内容を設定し、環境の構成や援助を行うことが必要である。
- 3 日常的な生活の中で、子ども同士が自ら関係をつくり、遊びを展開していけるよう十分に配慮することが重要である。
- 4 様々な年齢の子どもたちが共に生活する場という保育所の環境を生かし、異年齢編成での保育によって自分より年上、年下の子どもと交流することによって、子どもたちがより多様な体験を得られることが期待される。
- 5 異年齢の編成による保育において、保育士等の意図性が強くなると、子どもが負担感を感じることも考えられる。

問8 次の文のうち、「保育所保育指針」第4章「子育て支援」の一部として、(a)～(d)の下線部分が正しいものを○、誤ったものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- ・ (a) 子どもの意見に反しない限りにおいて、保護者や子どもの(b) プライバシーを保護し、知り得た事柄の(c) 秘密を保持すること。
- ・ 保育の活動に対する保護者の積極的な参加は、保護者の(d) 子どもの発達に関する知識の向上に寄与することから、これを促すこと。

(組み合わせ)

	a	b	c	d
1	○	○	×	○
2	○	×	○	○
3	○	×	×	○
4	×	○	○	×
5	×	○	×	×

問9 次の文は、日本の保育思想と歴史に関する記述である。誤ったものを一つ選びなさい。

- 1 『育ての心』は、倉橋惣三の著書である。
- 2 『幼稚園摘葉』は、和田実の著書である。
- 3 『幼児教育への道』は、城戸幡太郎の著書である。
- 4 『垂統秘録』は、佐藤信淵の著書である。
- 5 『養生訓』は、貝原益軒の著書である。

問10 次の文は、諸外国の保育の歴史に関する記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A オーベルラン (Oberlin, J. F.) は、自ら経営するイギリス、スコットランドのニューラナークの紡績工場内に「性格形成学院」を開設した。そこに1～6歳の幼児を対象とする「幼児学校 (Infant School)」を置いた。
- B モンテッソーリ (Montessori, M.) は、「遊び」を幼児期の教育の重要な活動と位置づけ、幼児が遊ぶ道具として神からの贈り物という意味を込めた「恩物」を考案した。
- C エレン・ケイ (Key, E.) は、スウェーデンで活動した女性教育家である。1900年に教育上の主著『児童の世紀』を発表した。
- D ルソー (Rousseau, J. -J.) は、フランスを中心に活動した啓蒙思想家である。代表的著作に『エミール』がある。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	○	○	×	×
2	○	×	○	○
3	○	×	×	○
4	×	○	×	○
5	×	×	○	○

問11 次の文は、子ども・子育て支援新制度に関する記述である。(A)～(C)
にあてはまる語句の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- ・ 認定こども園は、幼稚園型、保育所型、(A)、幼保連携型の4類型があるが、このうち幼保連携型認定こども園の法的位置づけは学校及び(B)である。
- ・ 市町村は、市町村子ども・子育て支援事業計画に従い、地域の実情に応じて、地域子育て支援拠点事業や一時預かり事業等の(C)を行う。

(組み合わせ)

	A	B	C
1	地方裁量型	保育所	地域子ども・子育て支援事業
2	地方裁量型	児童福祉施設	地域子ども・子育て支援事業
3	子育て支援型	保育所	仕事・子育て両立支援事業
4	子育て支援型	児童福祉施設	仕事・子育て両立支援事業
5	地方裁量型	幼稚園及び保育所	地方版子ども・子育て会議

問12 次の文のうち、「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」（昭和23年厚生省令第63号）の一部として、（a）～（d）の下線部分が正しいものを○、誤ったものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- ・ 満二歳以上の幼児を入所させる保育所には、保育室又は遊戯室、（a）屋外遊戯場（保育所の付近にある屋外遊戯場に代わるべき場所を含む。次号において同じ。）、調理室及び便所を設けること。
- ・ 保育士の数は、乳児おおむね三人につき一人以上、満一歳以上満三歳に満たない幼児おおむね （b）五人につき一人以上、満三歳以上満四歳に満たない幼児おおむね二十人につき一人以上、満四歳以上の幼児おおむね （c）三十五人につき一人以上とする。
- ・ 保育所は、定期的に外部の者による評価を受けて、それらの （d）結果を公表し、常にその改善を図るよう努めなければならない。

（組み合わせ）

	a	b	c	d
1	○	○	×	×
2	○	×	○	×
3	○	×	×	○
4	×	×	○	○
5	×	×	×	○

問13 次の文は、保育所保育に関する基本原則に関する記述である。「保育所保育指針」第1章「総則」1「保育所保育に関する基本原則」に照らした場合の不適切な記述を一つ選びなさい。

- 1 子どもが自発的・意欲的に関われるような環境を構成し、子どもの主体的な活動や子ども相互の関わりを大切にすることが重要である。
- 2 保育の環境として、子ども自らが周囲の子どもや大人と関わっていくことができる環境を整えることが示されている。
- 3 保育所における保育士は、倫理観に裏付けられた専門的知識、技術及び判断をもって、子どもを保育するものであり、子どもの保護者に対する保育に関する指導は原則行わない。
- 4 一人一人の子どもの状況や家庭及び地域社会での生活の実態を把握するとともに、子どもが安心感と信頼感をもって活動できるよう、子どもの主体としての思いや願いを受け止めることが大切である。
- 5 児童福祉法第48条第4項において保育所の情報提供が努力義務として規定されており、保育所は、保護者や地域社会に、当該保育所が行う保育の内容を適切に説明するよう努めなければならない。

問14 次の文は、「保育所保育指針」第1章「総則」2「養護に関する基本的事項」の一部である。(A)～(D)にあてはまる語句の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- ・ 子どもの発達過程等に応じて、適度な運動と (A) を取ることができるようにする。また、食事、排泄、衣類の着脱、身の回りを清潔にすることなどについて、子どもが (B) に生活できるよう適切に援助する。
- ・ 保育士等との信頼関係を基盤に、一人一人の子どもが (C) し、自発性や探索意欲などを高めるとともに、(D) をもつことができるよう成長の過程を見守り、適切に働きかける。

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	休息	積極的	友達と同じように行動	他者への思いやり
2	休息	意欲的	主体的に活動	自分への自信
3	休息	意欲的	友達と同じように行動	自分への自信
4	睡眠	積極的	友達と同じように行動	他者への思いやり
5	睡眠	意欲的	主体的に活動	自分への自信

問15 次の文のうち、「保育所保育指針」第1章「総則」1「保育所保育に関する基本原則」

(2)「保育の目標」の一部として、(a)～(d)の下線部分が正しいものを○、誤ったものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- ・ 保育所は、子どもが生涯にわたる人間形成にとって極めて重要な時期に、その生活時間の大半を過ごす場である。このため、保育所の保育は、子どもが現在を(a) 最も良く生き、(b) 主体的な生活をつくり出す力の基礎を培うために、次の目標を目指して行わなければならない。
- ・ 保育所は、入所する子どもの保護者に対し、その意向を受け止め、子どもと保護者の(c) 愛着関係に配慮し、保育所の特性や(d) 保育士等の技術を生かして、その援助に当たらなければならない。

(組み合わせ)

	a	b	c	d
1	○	○	○	×
2	○	○	×	○
3	○	○	×	×
4	○	×	×	×
5	×	×	○	○

問16 次の文は、諸外国の保育に関する記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A イタリアは、合計特殊出生率が1.6台から2.0前後まで上昇した実績があり、少子社会対策に一定の成果があったとして評価された。多様な支援によって、出産・子育てと就労に関して幅広い選択ができるような環境整備が進められた。
- B OECD（経済協力開発機構）から、「Starting Strong」と題した報告書が刊行され、近年、教育と経済との関連性の視点からも、保育の質の重要性が国際的に注目されている。
- C ニュージーランドには、「テ・ファリキ」という保育カリキュラムがあり、子どもの経験を評価する手法の一つとして「学びの物語（ラーニング・ストーリー）」が開発・運用されている。

(組み合わせ)

- | | A | B | C |
|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | × | ○ |
| 3 | ○ | × | × |
| 4 | × | ○ | ○ |
| 5 | × | ○ | × |

問17 次の文は、「こども基本法」第3条の一部である。この記述を完成させる場合、(A)
～ (C) の語句が正しいものを○、誤ったものを×とした場合の正しい組み合わせ
を一つ選びなさい。

全てのこどもについて、その年齢及び (A 情報活用能力) の程度に応じて、自己に
直接関係する全ての事項に関して意見を (B 表明) する機会及び多様な社会的活動に
(C 参画) する機会が確保されること。

(組み合わせ)

- | | A | B | C |
|---|---|---|---|
| 1 | ○ | ○ | × |
| 2 | ○ | × | ○ |
| 3 | × | ○ | ○ |
| 4 | × | ○ | × |
| 5 | × | × | ○ |

問18 次の文は、乳児保育に関わるねらい及び内容に関する記述である。「保育所保育指
針」第2章「保育の内容」1「乳児保育に関わるねらい及び内容」に照らし、不適切な
記述を一つ選びなさい。

- 1 乳児期の発達の特徴を踏まえ、乳児保育の「ねらい」及び「内容」は、5つの領域と
してまとめ、示されている。
- 2 「身近な人と気持ちを通じ合う」の「内容」として、「温かく、受容的な関わりを通じ
て、自分を肯定する気持ちが芽生える。」と示されている。
- 3 この時期の子どもの生活は、一人一人の生理的なリズムが尊重されることが重要であ
り、一人一人の生活のリズムに応じることが大切である。
- 4 「身近なものに関わり感性が育つ」の「ねらい」として、「見る、触れる、探索するな
ど、身近な環境に自分から関わろうとする。」と示されている。
- 5 乳児期の子どもにとって、保育士をはじめとした特定の大人との応答的な関わりが重
要であるため、子どもが表出する要求に、タイミングよく共感的に応えることが大切で
ある。

問19 次の文は、「保育所保育指針」第2章「保育の内容」1「乳児保育に関わるねらい及び内容」の一部である。(A)～(D)にあてはまる語句の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- ・ (前略)特に、寝返り、お座り、はいはい、つかまり立ち、伝い歩きなど、(A)に応じて、(B)の中で体を動かす機会を十分に確保し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにすること。
- ・ 玩具などは、音質、形、色、大きさなど子どもの発達状態に応じて適切なものを選び、その時々の子どもの(C)を踏まえるなど、遊びを通して(D)の発達が促されるものとなるように工夫すること。(略)

(組み合わせ)

	A	B	C	D
1	環境	遊び	興味や関心	感覚
2	興味	遊び	性格	感覚
3	発育	保育室	状態	身体
4	環境	保育室	性格	身体
5	発育	遊び	興味や関心	感覚

問20 次の文のうち、「保育所保育指針」第1章「総則」3「保育の計画及び評価」(2)「指導計画の作成」の一部として、(a)～(d)の下線部分が正しいものを○、誤ったものを×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

障害のある子どもの保育については、一人一人の子どもの(a) 興味関心や障害の状態を把握し、適切な環境の下で、障害のある子どもが(b) 保育士との生活を通して共に成長できるよう、(c) 指導計画の中に位置付けること。また、子どもの状況に応じた保育を実施する観点から、家庭や(d) 関係機関と連携した支援のための計画を個別に作成するなど適切な対応を図ること。

(組み合わせ)

	a	b	c	d
1	○	○	×	○
2	○	×	○	×
3	×	○	○	×
4	×	×	○	○
5	×	×	×	○